



道徳のとびら

ふくしまのすごい人、すごいもの、すごい〇〇〇クイズ

あなたが大切にしているものやことは何ですか。

家族、友だち、自分だけの宝物などでしょうか。または、「友情」「思いやり」「誠実さ」など目に見えないものもあるかもしれません。

私たちが住んでいる福島県にも、すごい人、すごいもの、素晴らしい自然など大切にされてきたものがたくさんあります。それらについて、クイズをつくりました。クイズの答えを家族と一緒に考えたり、その素晴らしさを話し合ったりしてみましょう。みなさんは福島県のどんなところを大切にしていきたいですか。

向上心、個性の伸長

		①				じ
--	--	---	--	--	--	---



福島市出身の作曲家。「栄冠は君に輝く」をはじめ、多くの曲を作曲しました。連続テレビ小説「エール」のモデルになったこの人の名前は？

向上心、個性の伸長

④			や	え		
---	--	--	---	---	--	--

子どもにも大人にも大人気となっている「ウルトラマンシリーズ」や「ゴジラシリーズ」などの怪獣シリーズの名作を生みだし、特撮技術を日本映画界に普及させたこの人の名前は？



よりよく
生きる喜び



東日本大震災・原子力災害

⑦	ん					ん
---	---	--	--	--	--	---

「未来への継承・世界との共有」「防災・減災」「復興の加速化への寄与」の3つを基本理念として開館した、東日本大震災と福島第一原子力発電所事故の記録と教訓を集めたこの施設の名前は？

希望と勇気、
努力(克己)と
強い意志



江戸時代、全国各地にこのような施設が建設されましたが、現存しているのは白虎隊が学んだとされるこの施設のみ。ここでは星の観察のほか、暦の基準となる冬至を確定するため、太陽の動きを観測したと言われています。この施設の名前は？

会津藩校日新館

		②				あ	と
--	--	---	--	--	--	---	---

地域全体で「結(ゆい)」という組織を作り、協働でかやぶき屋根のふき替えを行うなど、互いに助け合いながら郷土を守り続けています。江戸時代の宿場町の風景をそのまま残しているこの場所の名前は？

お			③			
---	--	--	---	--	--	--

(郷土の)
伝統と文化の
尊重、国や
郷土を愛する
態度



親切、思いやり、感謝

図書館の新設に当たり、全国へ本の寄贈を呼びかけたところ、29万冊の本が集まり、開館しました。現在までの寄贈は45万冊を超えています。開館当初は町のボランティアによって運営され、現在も多くの町民に親しまれているこの図書館の名前は？

矢祭

も				⑤	い	し		
---	--	--	--	---	---	---	--	--



撮影：
草野日出雄氏

①～⑦の文字をあてはめると、どんな言葉になるでしょう。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
---	---	---	---	---	---	---



ふくしまのみらい

「モラル・エッセイ」コンテスト最優秀作品

県教育委員会では、毎年「モラル・エッセイ」コンテストを行っています。今回紹介するのは、令和2年度の各部門の最優秀作品です。次は、みなさんの心温まる体験談やすてきなエピソードを、是非お聞かせください。

中学生の部「何気ないけれど大切なこと」 会津若松市立第二中学校 1年 山本 実紀 さん

書き留めておかなければ、きっと明日には忘れてしまいそうなこと。そんな出来事の中にも、心と思い出した時元気になれる一瞬がある。

今年のお盆のお墓参りのことだ。祖父母たちと一緒にお寺を訪れた。水場に置いてある桶に水をくんで墓地に向かおうとしたところ、水場には先客がいらして、花瓶やお供え用の道具を洗っていた。私と姉が後ろに並ぶとすぐさま、「どうぞ。」

と、噴き出る汗を拭き拭きそのおじさんは順番をゆずってくださった。

「ありがとうございます。」

暑くて少しだけ涼しい気分だった私は、おじさんの笑顔に爽やかな気持ちになった。蛇口から出る水しぶきも気持ちいい。

お参りをすませ、ご先祖様と一緒に記念撮影。すると先ほどのおじさんが

「お撮りしますよ。」

と、離れたところから声をかけてくださった。

「すみません。ありがとうございます。」

こうして、私達はひとり残らず画面に収まった写真を撮ることができた。

帰り際、車を出そうとした時に、そのおじさんの姿を見かけた母は窓を開けて、再びお礼を述べた。私も笑顔で会釈した。

次にもしどこかですれ違ったとしても、気付くことのないおじさんとの短い短い出会いだったが、私の心に残った出来事だ。

私たちの毎日は、単調のことの繰り返しのように感じてしまう。朝、何とか起きる。授業を受ける。部活をする。宿題。ちょっとだけゲーム。「早く寝なさい」・・・の繰り返し。でも、少しアンテナの感度をよくしたら何気ない毎日の中にも、思わず笑顔になれるような出会いや出来事があるのかもしれない。そんな出会いや出来事を見逃さないよう、そして、あのおじさんのように、誰かの元気の素になれるような自分になりたいと思う。



高校生の部「つなげるー会津坂下の早乙女踊りー」 福島県立会津農林高等学校 2年 山内 里紗 さん

「アサアーヨナア ア舞い込んだアヨーナー舞い込んだアヨー」

これは、会津坂下町の伝統芸能「早乙女踊り」の歌の出だしだ。早乙女踊りは7月7日の御田植祭で豊作を願い奉納される。高校入学後の部活紹介で先輩方が披露した踊りに感動した私は、「私もやってみよう。」と思い、早乙女踊り保存クラブに入部した。

元々歌うことが好きだった私は「歌方」となり、先輩から歌の特殊な入り方や間の取り方などの丁寧な指導を受け、今では自信を持って後輩の見本となって歌うことができるようになった。畳を叩きながらリズムを取り、皆と声を合わせて練習していると先輩や同級生の息つきや言葉のタイミングが分かり気持ちがつながるのを感じた。

昨年の御田植祭直前には、町の保存会の方々で合同練習をした。最初は「すごいね。」とほめていただき練習をしていくうちに「田植えをする田舎の力強い女の人のように歌うのもっといいよ。」と積極的なアドバイスをいただきとても勉強になった。その後、一緒に歌い、その力強い声に安心感を覚えた。

そして昨年私が一番心に残った出来事がある。90歳のおばあちゃん2人に歌と踊りを教えていただいたことだ。私達は昨年、戦後踊られなくなっていた「扇の舞」を復活させた。おばあちゃん達は10代の頃、この舞を踊っていたのだ。体育館の中で椅子に座り私達の踊りや歌を見て「継承してくれてありがとう。」と言ってくださった。その後、「歌方」だったおばあちゃんが杖を置いて立ち、私達と一緒に歌ってくださった。おばあちゃんの歌に対する気持ちの強さを感じる時間だった。

今年のコロナ禍で御田植祭、その他全ての発表の場がなくなってしまった。しかし、多くの方に協力していただき動画作成を行った。

伝統芸能を継承すること、それは人と人の心のつながりを守ることだと思う。私は、卒業後も早乙女踊りに関わりたいと思う。



一般の部 具材のない隠し味 二本松市在住 鈴木 雅之 さん

「マッチ、次に私にやらせて」

順番を争いながら、マッチに火をつける。上手に出来る子は誰もいない。しかし、生き生きとした子供達の姿がそこにはあった。

宿泊学習が、コロナの影響で中止になった。2泊3日の貴重な体験が出来ずだった小学5年生の息子達。本来であれば、親や家族と離れて初めての宿泊体験になる予定だった。少し大人になった子供の成長を感じることができないもどかしさを強く感じた。

東日本大震災に伴う福島原発の事故が起こったのは、この子供達が1歳の時だった。「外には出るな」「砂は触るな」と教えてきた。子供なら、当たり前にする行動でさえ、制限をしなければならなかった。あれから、もうすぐ10年。今は、コロナ禍で様々な制限が同じように行われている。

もしかしたら、私達の無念の想いを感じ取ってくださったのかもしれない。小学校の校長先生や担任の先生は諦めなかった。「体験を少しでもやらせたい」先生達のそんな強い想いで、状況や日時が変更になっても、小学校の敷地で自然体験学習の実現にこぎ着けた。

午前中は、プールでカヌー体験。そして、午後は、かまどを使った自炊体験。準備の段階で多くの方が協力してくれた。5年生にお子さんがいないのに、休日にかまどを作ってくれたPTAの役員の方。孫の為に、2時間以上、鉄板を磨いてくれたおじいちゃん。その他にも、地域の人、カヌー協会の方などの協力があり実現することが可能になった。

このコロナ禍は、社会的な距離を求めつつ様々な行事の機会も奪い、私達の生活を脅かしている。しかし、こんな困難な状況にあっても、様々な立場の人々の想いや絆で、貴重な体験をさせることができた。自炊体験で作った焼きそばの味には、ソースの他にも、具材のない隠し味があったのかもしれない。

